

【平生町】
校務DX計画

令和6年3月8日付・文部科学省発出の「GIGAスクール構想の下での校務DXについて」により、令和の日本型学校教育を支える基盤としての校務DXを実現するために必要な今後取り組むべき施策が示されたところである。本町においても以上を踏まえ、校務DXによる学校現場の働き方改革をはじめとしたさらなる教育の情報化を行っていく必要がある。

1 現状について

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト（令和6年3月8日付通知）」（以下、「チェックリスト」という。）における本町の校務DXの現状（半分以上がデジタル化）は以下のとおりである。

項 目	平生町	国
	現状値 (年度)	目標値（目標年度） ※教育DXに係る当面のKPIより
①クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校の率 【教職員と保護者】 欠席・遅刻・早退連絡、お便りの配信、調査・アンケートの実施 【教職員と児童生徒】 各種連絡事項の配信、調査・アンケートの実施 【学校内】 資料共有、情報教諭、調査・アンケートの実施	24% (R5)	100% (R8)
②FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校の率	0% (R5)	100% (R7)
③校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校の率	-	100% (R8)
④生成AIを校務で活用する学校の率	0% (R5)	50% (R7)

① 校務DX化チェックリストの活用

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」を基に、各学校の進捗を定期的に評価し、改善点を明確にする。これにより、校務DXにおける学校間格差の縮小を図る。

② 教員とのやり取り・児童生徒の出欠連絡デジタル化

現在、各校において文書やアンケートの電子送信、クラウドサービスを利用した児童生徒の出欠連絡を実施している。

出欠連絡については、小規模校は電話連絡で対応しきれるという理由から運用が行われていない学校が見受けられる。学校の時間外であっても保護者が情報を送信できることや、教職員がそれぞれ空いた時間で確認・折り返し連絡ができるメリットを理解し、全校が実施できるよう目指していく。

③ F A Xでのやり取り・不必要な押印の廃止

F A Xでのやり取りや不必要な押印については、教職員が場所に縛られない働き方（ロケーションフリー）の考え方から大きく逸脱するため、原則として廃止する。しかし、F A Xについては、地域の販売店とのやり取りなどで必要な場面があることも承知している。教育委員会としては、行政機関などの関係各所が学校に対してF A Xや不必要な押印を求めることのないよう働きかけていく。

④ 次世代の校務デジタル化について

現行、校務支援システムを利用する環境と汎用クラウドツールを利用する環境は仮想環境で使い分けている。

校務支援システムへの名簿登録情報は、学齢簿システムから吸い上げた新小学1年生等のデータ情報を取り込むことで手入力作業を削減している。

次世代の校務システムにおいては、現状のMicrosoft Teamsからのクラウド連携に取り組む。